

畑わさびの試験圃場の整備について

1 はじめに

畑わさびの新規生産者を掘り起こすため、県南広域振興局の地域経営推進費を活用し、試験圃場を整備したので、その取り組みを報告します。

2 新規生産者の掘り起こしについて

奥州地域の新規生産者を確保するため、産地直売所にチラシを掲示し、しいたけ生産者等に働きかけを行ったものの、立木がないことや畑地整備が困難などの理由により新規生産者の掘り起こしに難儀しました。

そこで、元しいたけ生産者であるAさんにお話ししたところ、栽培に意欲を示していただき圃場となる畑地整備を行うことになりました。

3 圃場の整備について

- (1) 3割程度の陽射しとなるよう圃場の照度を調整するため、9月に間引き伐採を行いました。枯れた木があったことから、中央箇所は立木がほとんど無くなったので、この箇所は切株からの萌芽に期待することとし、切株3本を残地しました。
- (2) 耕起作業はAさん所有のバックホウで行いました。岩と根株の掘り起こしや広く張った細根・ゴボウ根の除去に苦労しましたが、腐葉土を含んだ畑地として良質な土壌に仕上がりました。
- (3) 殺虫剤、鶏糞、わさび専用肥料を散布後に耕運機で耕し、整地して植栽の準備が完了しました。

4 植栽について

遠野市の石関林業普及指導協力員による指導の元、10月遠野農林センターと県南広域振興局林務部の職員が圃場に集合して、わさびの専門的な説明を受けながら約200

平方メートルに600本を植栽しました。

5 おわりに

植栽の1週間後に活着を確認したところ順調であり、翌春以降の除草など引き続き管理を支援します。

